学校法人　広島女学院

2012 年度決算概況

2012 年度決算を概括すると、法人全般の大きな事業としては、大学において新たに国際教養学部と人間生活学部を設け新学部がスタート。入学定員未充足のスタートとなり学納金収入の減少など決算への影響も発生した。幼稚園では再開園 50 周年記念事業を実施した。
以下主要科目について決算概況を説明する。

1. 資金収入の部

(1) 学生生徒等納付金収入

当初予算との比較では 121 百万円少ない結果となっており、その主な要因は、大学入学定員不足や休学・中途退学等要因から期中人員の減少などによるものである。

(2) 寄附金収入

大学協力会より 9 百万円、広島女学院維持会より 4 百万円の寄附があり、厚生補導関連経費補助や奨学金などに充当した。

(3) 補助金収入

国からの経常費補助金は、一般補助 265 百万円(対前年度比 54 百万円増)、特別補助 14 百万円（対前年度比 2 百万円増）であり、また障がい支援高等研究に係る設備補助金 8 百万円、総合学生支援センター研究活性化補助 13 百万円など競争的補助金獲得実績が 31 百万円と顕著であった。また、緊急特別推進事業として 2012 年度～2013 年度事業に 2 件の 26 百万円の採択結果となった。一方広島県などからの地方公共団体補助金は予算 404 百万円に対し 42 百万円増の 446 百万円と安定確保できた。

(4) 前受金収入

当初予算 453 百万円に対し大学入学者の減少から 63 百万円減の 390 百万円であった。

(5) その他特記事項

日本キリスト教学校教育同盟維持財団の解散による出資金返戻 11,209 千円を雑収入として受け入れた。

2. 資金支出の部

(1) 人件費支出

前年度決算に比べ退職金支払いの減少から 118 百万円の減少となったが、教員人件費は 43 百万円、職員人件費は 2 百万円増加したが大学改組人事による増加である。

(2) 教育研究経費支出

658 百万円の執行実績であった。大型設備投資に伴う関連経費などもなく各校部とも経費削減努力を行った。

(3) 管理経費支出

268 百万円の実績で経費削減努力から予算内に収まった。

(4) 施設関係支出

大学ソフィア館の実習室改修以外の大型投資はなく、65 百万円の実績となった。

(5) 設備関係支出

大学補助事業に伴う支出や、リースによる教育用機器備品設備に 28 百万円などを行った。

(6) その他特記事項

国税調査による課税漏れ修正等により、納税した。

以上の結果当年度資金収支差額は 210 百万円、次年度繰越支払資金 1,038 百万円となり 10 億円台の確保ができた。

3. 消費収支の部

(1) 帰属収入の部

3,728 百万円の実績であり、当初予算と比べると 6 百万円の増加である。

(2) 基本金組入れ額

大学ソフィア館など改修や設備取得および借入金返済などから 1 号基本金に 397 百万円、第三号基本金に 570 千円の組入れを行い、日本キリスト教学校教育同盟維持財団解散に伴う出資金取崩しを行った。

(3) 人件費

退職給与引当金計算においては、本学は従前より必要額の 100%を引き当てており引当金繰入額はここ数年では最も少ない 20 百万円の実績となった。

この結果、人件費比率（人件費／帰属収入）も 59%と 3 期連続 60%以内に抑制することができた。

(4) 教育研究経費

教育研究経費 1,223 百万円の内減価償却額が 564 百万円（大学 423 百万円、中高 134 百万円、幼稚園 8 百万円、教育研経費割合 46.12%（前年度 39.25%））と高止まりとなった。

(5) 当年度消費支出超過額

消費収入（帰属収入 3,728 百万円―基本金組入れ額 398 百万円）―消費支出 3,751 百万円＝421 百万円

(6) 当年度帰属収支差額

帰属収入 3,728 百万円―消費支出 3,751 百万円＝△23 百万円と 4 期連続黒字決算には至らなかった。

以　上